

# 令和5年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 富野 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

##### 教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 生徒質問紙調査

##### 生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

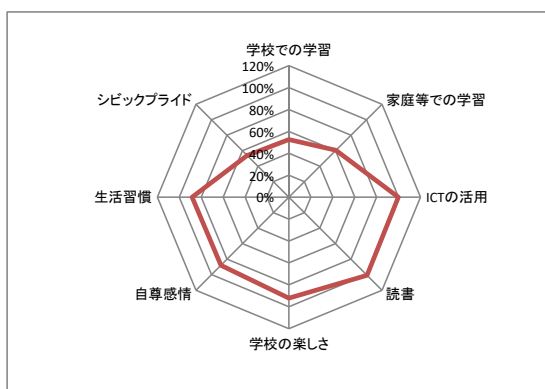
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国の平均正答率を下回っているが、知識及び技能を問う内容のうち、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国との差は小さく改善がみられる。しかし「情報の扱い方に関する事項」の正答率が低く課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国の平均正答率を下回っているが、「図形」の領域では全国平均との差は小さくなっている。「数と式」「データの活用」の領域では課題みられる。また、思考・判断・表現の正答率が低いため、記述式の正答率も低くなっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる問題	
英語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国の平均正答率を下回っているが、「書くこと」の領域、記述式の問題は全国平均との差が小さい。「話すこと」の領域、口述式の問題形式の正答率が低く、知識・技能に課題がみられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる問題	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習の中でICT機器の使用しているか」や「学習の中でICT機器が勉強の役に立つか」の質問に90%以上の生徒が肯定的に回答している。</li> <li>・「読書は好きか」の質問に70%の生徒が肯定的に回答しており、全国平均を上回っている。</li> <li>・学校での学習の中で自分の考えを深めたり、うまく伝えたりする部分に課題がみられる。また、家庭での学習において、自分で計画を立てることや、学習時間は全国と比べると低くなっている。学校全体で個に応じた支援や授業改善を進めていく必要がある。</li> <li>・「自分には、よいところがある」と思っている生徒の割合が全国と比べると低いが、「人の役に立ちたい」と思っている生徒の割合は全国と同等である。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

・調査結果から、今後も5教科を週替わりで取り組む朝自習を継続して行うとともに、富野タイムや富野ノートの取組を継続・徹底していくことで、基礎学力と学習習慣の定着を図っていく。また、内容も生徒の実態に合わせて、きめ細かく指導・支援を行う。授業においては、自分の考えを表現できるよう、「話し合い活動」を通して、主体的に取り組む姿勢を育成していく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・調査結果から、起床・就寝時間など比較的規則正しい生活ができている。しかし、朝食を毎日摂れていないせいとも多いため、通信等を利用し、家庭へも協力を呼びかけていきたい。また、家庭での学習が定着できるよう、学校でも個に応じた課題等の工夫を行っていきたい。